



令和7年度 小笠原村立小笠原小学校

12月冬休み号

(R7. 12. 25)

TEL 04998-2-2012

校長 西村 浩



学校だより

子供の人権を守る

校長 西村 浩

今日、ここに2学期が無事終了いたしました。保護者・地域の皆様のご理解とご協力によるものと深く感謝申し上げます。

2学期は、連合運動会を始め、展覧会、6年母島移動教室、校外学習などの様々な行事や千代田区立麴町小学校、母島小学校との学習交流などがありました。また、ブイフロート撤去や PTA こどももちつき大会など、PTA 役員、保護者、地域の皆様にご協力いただいた活動も多々ありました。こうした活動を通して子供たちは多くの人と関わり、豊かな心と健やかな体を育てています。どの子も階段を一步一步確実に上がるように成長しています。

私たちは、「この子は〇〇、あの子は〇〇」と決めつけていることはないでしょうか。

どの子も、私たちの想像を超える力をもっています。他の子供と比べるのではなく、その子自身の前の姿と比べること、できない理由ばかりを並べるのではなく、できる理由を並べることが、その子自身の成長につながり、高い目標へと向かいます。今日、子供たちは、担任から通知表を手渡されました。通知表は、担任や専科教員が「目・手・気・心」をかけて指導した子供の成長の記録であり、評価です。子供一人一人の成長する速さは、それぞれ違います。しかし、確実にどの子も「知識や技能、考える力、学びに向かう力」など、生きて働く力を身に付けてきています。お子様の成長を大いにほめてあげてください。

さて、2学期が終業するに当たり、私たち大人の人権感覚について考えてみたいと思います。

子供は大人と違って成長段階にあります。特に小学生段階では、「十分な睡眠、十分な栄養、十分な運動、正しい物の見方・考え方、そして深い愛情」がとても必要であり、とても大事です。これらは自分だけで得られるものではなく、大人（家庭）が与え続け、守ることで、大人と子供は同じ人間ですが、子供は未成熟です。今、その子にとって必要なことを十分に与え、守ることが、その子の健やかな成長につながります。小学生は未成熟な分、中身（心）の成長を優先させることが大事で、それが正常な発達を促し、人権を守ることになるのだと考えます。本校では、定期的にいじめや体罰、子供の人権など服務事故防止研修を実施しています。子供の人権については、東京都教育委員会の人権教育プログラムを活用して教員一人一人が人権感覚を定期的に振り返っています。

以下のポイントで人権感覚をチェックします。ご家庭でも、チェックできる項目があるのではないのでしょうか。（人権プログラム：人権感覚 教職員のチェックポイント 一部抜粋）

教師と子供との関わり
的確な児童理解に基づき、一人一人を大切にされた指導を行っているか
登校時に、児童に率先して言葉を掛け、温かく送り迎えをしているか
朝の会等で、児童の心身の健康状況を丁寧に把握しているか
児童が互いの作品等のよさを認め合うことができるような具体的な取組を行っているか
児童のいじめ等による変化を見逃さず、学年や学校全体で情報を共有できるよう報告等をしているか
児童に対し、一方的な思い込みや偏った見方、いわゆる固定的な性別役割分担意識等ではなく、確かな事実や根拠を基に指導しているか
欠席した児童に対し、学校からの連絡内容が確実に伝わるよう配慮しているか
学習で使用する教具や設備を誰もが公平に使えるように配慮しているか
体罰や不適切な行為を未然に防止するために、日常の指導の在り方について相互に点検を行っているか

3学期は、さらに子供のよさや可能性を引き出し、子供たちの笑顔がいっぱいで、本気になって力を発揮できるように、教職員一同、統一感をもって指導してまいります。

どうぞ、よい年をお迎えください。そして、3学期もよろしくお願ひ申し上げます。